

第6回 鈴峰中学校区 拡大学校運営協議会
兼 令和7年度 第4回 深伊沢小学校 学校運営協議会 実施報告書

1. 日 時 令和7年11月25日（火） 15：30～16：50

2. 場 所 鈴峰中学校体育館

3. 内容

（1）あいさつ

<山本委員長より>

○年に1回の拡大学校運営協議会ではあるが、各校の学校運営協議会の委員さんが集まる機会なので、分科会ではたくさんの意見を出し合ってもらいたい。

○今年度の講演は、昨年度に引き続き、鈴鹿市教育委員会事務局教育指導課 井上先生より、「部活動の地域移行」について、現状等をお話していただきます。

<池畠校長より>

○拡大学校運営協議会は、地域連携・小中連携の痛点的な取組の一つである。有意義な話し合いとなるよう、たくさんのご意見やご質問をいただきたい。

○小中学校とも、2学期はたくさんの学校行事が予定されている。校区の子どもたちのために、地域の皆様にもご協力をいただけるとありがたい。

（2）これまでの経過 （事項書参照）

（3）これまでの活動 （事項書参照）

（4）講演 『部活動の地域移行について』

講師：鈴鹿市教育委員会事務局教育指導課 井上 久 先生

○今後、児童生徒数の減少だけでなく、教職員不足もあり、中学校の部活動が難しくなってきている。そのような状況もあり、部活動の地域移行ということになった。

○現在、市内中学校では、部活動の加入は任意となっている。（鈴峰中学校は、部活動の加入率が高い。）多様な活動の場があり、子どもたちはその中から選択できる。

○令和8年度10月以降、平日の部活動は2時間以内、休日の部活動は実施しないこととなっている。ただし、運動部については、中体連の大会は参加することができる。また、吹奏楽部については、現在、精査中である。

○今年度、地域移行のモデル事業を年間4回実施する予定であり、すでに申し込みがされている。練習会場や指導者などの課題がある。

○今後の課題としては、吹奏楽部の場合、活動場所の確保や楽器の借用など、まだまだクリアできていない問題がある。また、生徒が大会やコンクール等に出場する場合、土日開催であれば学校としては出ることはできない。

○来年度10月から本格的に始まるが、競技によっても違いがあるが、まだまだ地域の受け皿が不足している。さらに、来年度の地域移行に伴い、新たな課題も出てくると思われる。

(5) 分科会（全体交流を含む）

- ① 部活動A 進行：鈴峰中学校長
・地域移行になると、会費（スポーツ保険を含む）や生徒の送迎など、保護者の負担が増えるのではないか。それが理由で、参加できない中学生が出てこないか。
・中学生は、部活動の地域移行をどのように思っているのか。アンケートなどをとって、生徒の声を聞いたりはしないのか。
・柔道や剣道など、すでに地域移行が進んでいる競技もあれば、受け入れてくれる団体や指導者がみつからない競技もある。活動場所についても課題である。
- ② 部活動B 進行：椿小学校長
・消耗品や備品などをそろえるための費用、講師や指導者への謝金など、市からは出してもらえないのか。受講者の負担が大きいのではないか。
・平日の部活動についてはこれまでどおりであるが、今後は平日の部活動についても地域移行となっていくようだが、本当に可能なのか。
・部活動がなくなっていくと、生徒のモチベーションも低下するのではないか。また、教育的な意味をもつ部活動が、勝利を優先したクラブチームになっていくことはどうなのか。
- ③ 学校行事（文化祭、運動会、修学旅行、社会見学等） 進行：庄内小学校長
・今年度、修学旅行については、小学校は奈良・京都方面、中学校は沖縄方面で実施された。中学校の修学旅行では、平和学習や自然体験等をおこなった。
・社会見学は、校区の小学校が合同で実施することにより、高騰しているバス代を抑えきることができるのではないか。
・今年度実施した小学校4校のデイキャンプのような取組は賛成である。他の行事や活動も考えていいってよいのではないか。（しかし、単独でという要望もある）
・運動会は、4校とも同日開催であったが、時期的にはよかったです。今後は、平日開催も検討していってはどうか。
- ④ PTA活動・環境整備 進行：深伊沢小学校長
・PTA広報の予算が少ないので、経費節約のため、通信等をホームページに掲載してもらえないか。また、PTA役員の減少に伴い、廃品回収などの活動を見直していく必要があるのではないか。
・環境整備については、学校の樹木剪定や除草作業など、市で行ってもらえないか。市からの予算は各校8万円ほどであるが、地域の方々の支援の力は大きい。
・PTA活動も小中連携が必要ではないか。（いざれくる統合に向けて）
- ⑤ 家庭学習とSNS 進行：鈴西小学校長
・オンラインゲームによるトラブルが、学校での人間関係に影響している。各学校では、出前授業などを実施し、情報モラル・情報リテラシーの指導を行っている。
・家庭学習や家庭読書、スマートフォン等の使用については、家庭の協力が必要である。学校から、家庭との連携や協力を呼びかけている。
・家庭学習の時間や取組には個人差があるが、家庭学習の手引きをヒントにしたり、自主学習ノートを上手に活用したりすることで、主体的に取り組めるようにする。